

やらされるかたづけから、やりたくなるかたづけへ

札幌国際大学 准教授 安井政樹



今回のでこぼこポン！のテーマは「かたづけの発明品」です。

かたづける場所を決めるというのは、一見ありきたりですし、「決めているのに、うちはうまくいかない…」と思った方も少なくないのではないのでしょうか。では、どうしたらよいのでしょうか。もしかすると、大人が決めているだけでは、うまくいかないのかもしれませんが。番組中のでこりんやポンのセリフから考えてみましょう。

使う場所の近くだとかたづけやすい

調理用具はキッチンの棚や引き出しに片付けます。パッと出せて、パッとしまえる。そんな使い勝手のよい片づけ方を一緒に考えるのもよいかもしれません。

かたづける場所を自分で考えるのも楽しい

「どこにしまっておこうか。」と一緒に考える大人の姿勢が大切なのかもしれませんね。

お気に入りのかたづけ場所を作ろう！

おうち、車庫、基地…。片づける＝道具が家に帰るというイメージをもたせるといいでしょう。

文字やイラストで分かりやすく

どこが、なんのおうちのなかか。表札を付けるとよいですね。その子のオリジナルが、やる気につながるときもあります。

このような作業を一緒に少しずつしていくこと自体に意味があるのかもしれませんね。

実は、入りきらないものを処分していくことも必要です。あれもこれも取っておくことは無理なので、収納場所に入る分だけにする取捨選択をする経験も大切なのです。逆に言えば、入らないから新しいものは買えないと、というようにあるものはある程度我慢することも教えていくとよいでしょう。

単純に言えば、自宅の駐車場が1台分なのに車を2台買っても無理ですよ。そういうイメージで、ミニカーを買いすぎないように我慢することにもつながりたいですね。ぬいぐるみやお人形も、ぬいぐるみのおうち（箱やケースなど）にも入りきらないときは、それ以上増やせないのです。子どもと一緒に、玄関収納や下駄箱に入りきらない靴も、タンスやクローゼットからあふれる服も整理するチャンスかもしれません。

こういう生活の見直しの中で、安易に捨てるのではなく、ものを大事にする心も同時に育てていきたいですね。